

## 名城大学自然災害リスク軽減研究センター(NDRR)の防災科学技術に関するオンライン講演会で講演をしました(2022/2/25)

テーマ：東北大学と名城大学の連携

場所：オンライン

2月25日(金)、名城大学自然災害リスク軽減研究センター(NDRR)が主催する防災科学技術に関するオンライン講演会(ZoonとYouTubeライブストリーミング配信)にて、当研究所の寺田賢二郎教授(計算安全工学研究分野)と溝口敦子クロスアポイントメント教授(計算安全工学研究分野/名城大学NDRR)が講演を行いました。

講演に先立ち、司会の小高猛司教授(名城大学NDRRセンター長)から、東北大学と名城大学の包括連携協定やこれまでの連携、および、それらをふまえた本講演会実施の経緯の説明がありました。また、寺田教授の講演は名城大学の伝統行事である理工談話会の講演にも位置付けられているとの説明がなされました。

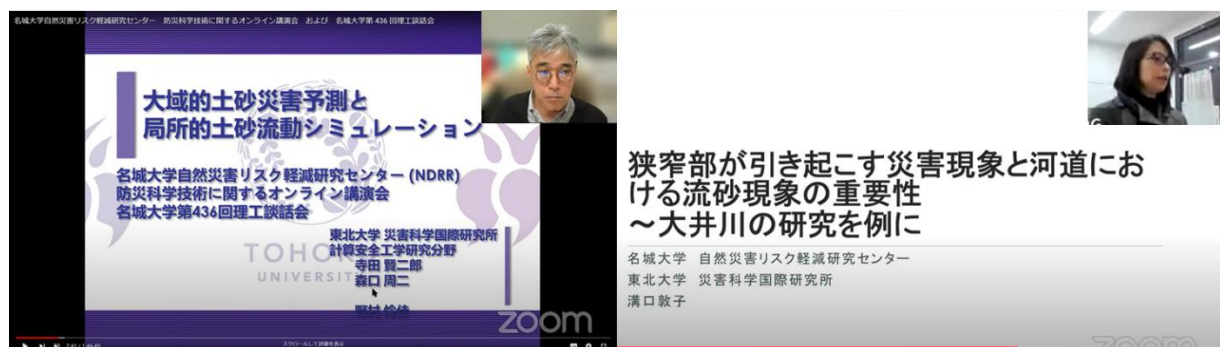
寺田教授は「大域的土砂災害予測と局所的土砂流動シミュレーション」のタイトルで講演し、広域を対象とした土砂災害と河川氾濫の統合シミュレーションに加えて、斜面崩壊や堤防破壊などの局所的な被害の全過程を表現可能な最先端の計算手法の研究成果を報告しました。溝口教授は、「狭窄(きょうさく)部が引き起こす災害現象と河道における流砂現象の重要性」のタイトルで講演し、狭窄部をキーワードとして、狭窄部を起因とした災害事例を示すとともに、河川の中にある流れ、土砂流動の重要性を示すいくつかの実験結果を報告しました。

北は北海道、南は四国・九州まで、全国各地から産官学の研究者や実務者ら160名の参加があり、各講演の後には参加者を交えた活発な議論が展開され、盛況な講演会となりました。

### <講演>

寺田賢二郎 教授(計算安全工学研究分野)

溝口 敦子 クロスアポイントメント教授(計算安全工学研究分野/名城大学NDRR)



オンライン講演会の様子(左：寺田教授、右：溝口教授)